

おきたま米づくり情報号外

(初期生育量確保緊急対策)

令和7年5月28日
やまがた温暖化対応米づくり日本一運動
置賜農業技術普及課
西置賜農業技術普及課

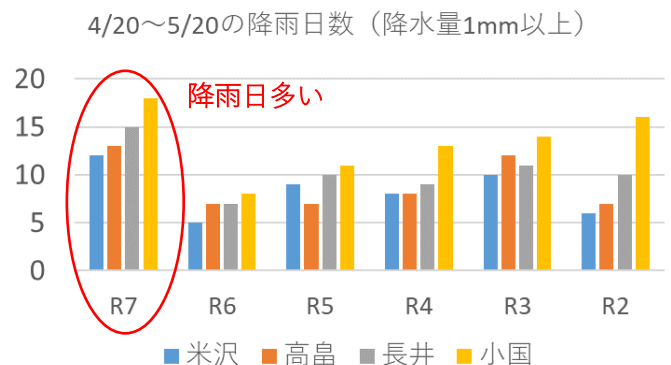
今年は乾土効果が小さく、初期生育量が確保しにくい環境

浅水管理とワキ対策で、適正な生育を目指しましょう



1 降雨日が多く、乾土効果は「小さい」と推定

- 4月下旬から5月中旬の降雨日数及び降水量が平年よりも多く、耕起前後は土壌が乾燥しにくい環境となりました。
- 乾土効果の窒素発現量は、平年対比50%程度と推定され、稲の初期生育量が確保しにくい環境となっています。



年次	乾土効果 (発現量)	乾土効果
R 7	0.58	小さい
R 6	1.28	やや大
平均	1.09	—

※農業総合研究センター
平均値は H1～R6（36 年間）

表 4月の月間降水量

	アメダス地点			
	米沢	長井	高畠	小国
R 7	69mm	125mm	66mm	225mm
R 6	62mm	60mm	68mm	72mm
平均	65mm	97mm	64mm	148mm

※平均値は直近7年のうち最大および最小を抜いて算出

2 これからの管理点（適正な初期生育量を確保するためには）

- 4月の降水量が多く、圃場の乾燥がすすまないと還元がすすみやすくなります。今後地温の上昇にともなって有機物の分解が急激にすすみ、**例年よりワキ（土壌の異常還元）が強まる可能性が高い**と考えられます。
- **分けつの発生を促す浅水管理とワキ対策を意識した水管理（水交換や軽い田干し）**で、適正な初期生育量の確保を目指しましょう。
- 「雪若丸」では、上記対策を実施しても6月20日の生育量が不足している場合、中間追肥を検討します。
(判断基準は、茎数 300 本/㎡以下、葉色 40 以下。詳細は栽培マニュアルを参照)

表1 「はえぬき」の初期生育量（茎数）の目標値

	5/30	6/10	6/15	6/20
はえぬき（本/㎡）	100	190	310	427
栽植密度別				
坪 70 株 （本/株）	4.9	8.9	14.6	20.1
坪 60 株 （本/株）	5.5	10.4	17.0	23.5

表は作柄診断圃（飯豊町）平年値を参考に作成

表2 「雪若丸」の初期生育量（茎数）の目標値

	5/30	6/10	6/15	6/20
雪若丸（本/㎡）	100	250	410	575
栽植密度別				
坪 70 株 （本/株）	4.9	11.7	19.3	27.1
坪 60 株 （本/株）	5.5	13.7	22.5	31.6

表は作柄診断圃（飯豊町）平年値を参考に作成